

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第19週 (5/8-5/14) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		19週	18週	17週	16週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	5/8-5/14	5/1-5/7	4/24-4/30	4/17-4/23	5/1-5/7
			19週	18週	17週	16週	18週
小児科	RSウイルス感染症		4	0	4	3	12
	咽頭結膜熱	○	7	4	2	3	42
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46	27	54	55	363
	感染性胃腸炎	○	168	134	154	158	634
	水痘		8	1	5	4	36
	手足口病		2	4	4	0	12
	伝染性紅斑		0	0	2	0	6
	突発性発しん	○	29	13	11	17	53
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		1	0	2	1	9
	流行性耳下腺炎		6	3	3	5	30
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		36	35	89	148	411
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0
	流行性角結膜炎	○	9	4	1	0	30
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	2	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	結核	女性	80歳代	病原体の検出
結核	男性	30歳代	病原体の検出	結核	女性	90歳代	画像診断等
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	A型肝炎	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	女性	80歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出

\*第19週は、結核6件(88)、A型肝炎1件(3)、梅毒1件(15)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

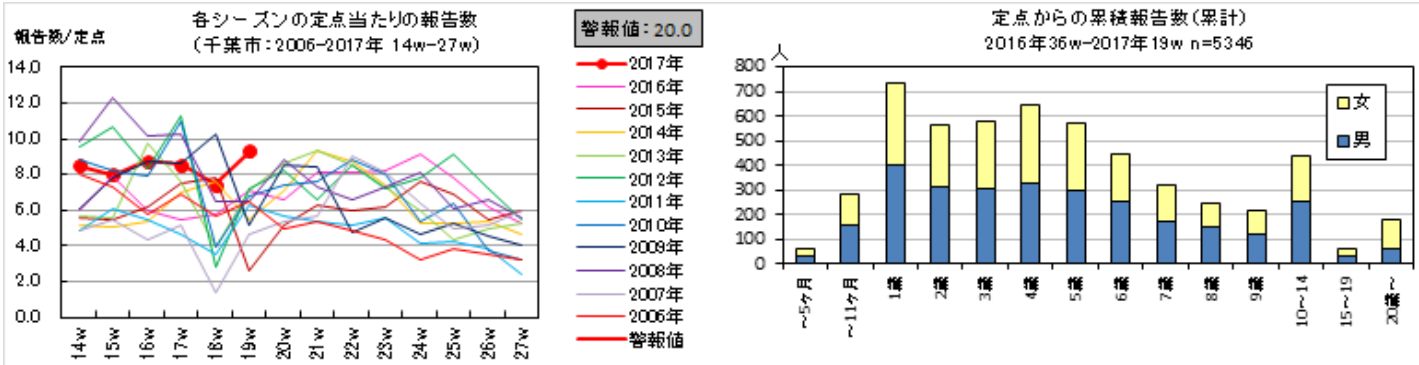
## 定点当たり報告数 第19週のコメント

- <咽頭結膜熱> 前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- <感染性胃腸炎> 前週より増加し9.33となった。過去10年の同期と比べると最多。
- <突発性発しん> 前週より増加し1.61となった。過去10年の同期と比べると最多。
- <流行性角結膜炎> 前週より増加し1.80となった。過去10年の同期と比べると最多。

■ トピック ■

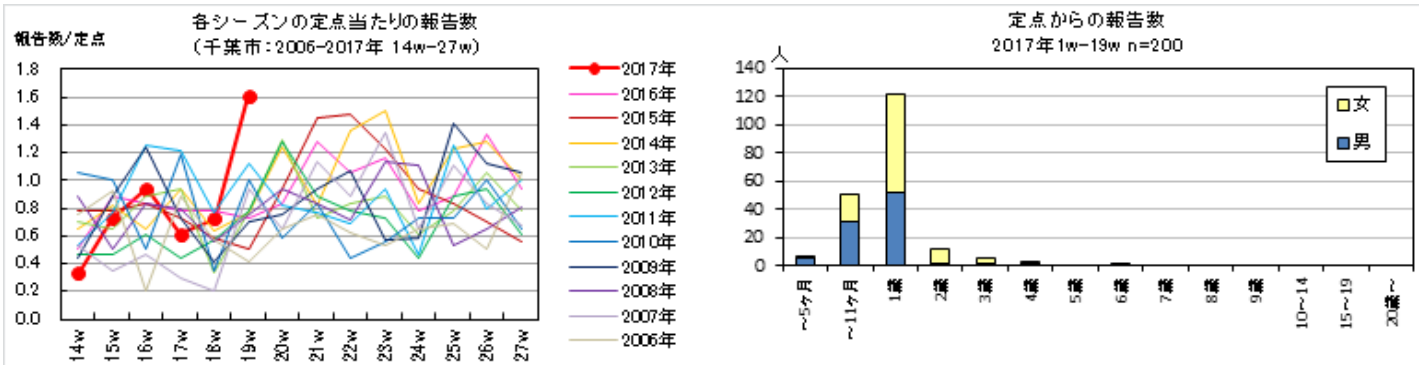
＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第18週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では福井県、石川県、大分県で多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2017年第18週は前週より増加し9.33となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(23.0/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では一昨年から高い水準のまま推移しており、2017年は第16週から大幅に増加しています。今シーズンである2016年第36週から2017年第19週までの累積報告数(n=5346)によると、性別では男性が53.9%(2884名)、女性が46.1%(2642名)で、年齢階級別では1歳(13.7%:734名)、4歳(12.0%:644名)、3歳(10.8%:577名)の順に多くなっています。



＜突発性発しん＞

全国レベルの2017年第18週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、佐賀県、山形県、島根県で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の2017年第18週は前週より増加し1.61となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第19週までの累積報告数(n=200)によると、性別では男性が47.5%(95名)、女性が52.5%(105名)で、年齢階級別では1歳(61.0%:122名)、6~11か月(25.5%:51名)、2歳(6.0%:12名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2017年第18週は過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、富山県、愛媛県、宮崎県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第19週は前週より増加し1.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、花見川区(5.0/定点)で最も多く、同区の70歳代で発生報告がありました。2017年第1週から第19週までの累積報告数(n=47)によると、性別では男性が51.1%(24名)、女性が48.9%(23名)で、年齢階級別では30歳代(27.7%:13名)、70歳代(19.1%:9名)、50歳代(12.8%:6名)の順に多くなっています。

